

☆後ろの脳の働き

「後頭葉(視覚野)」

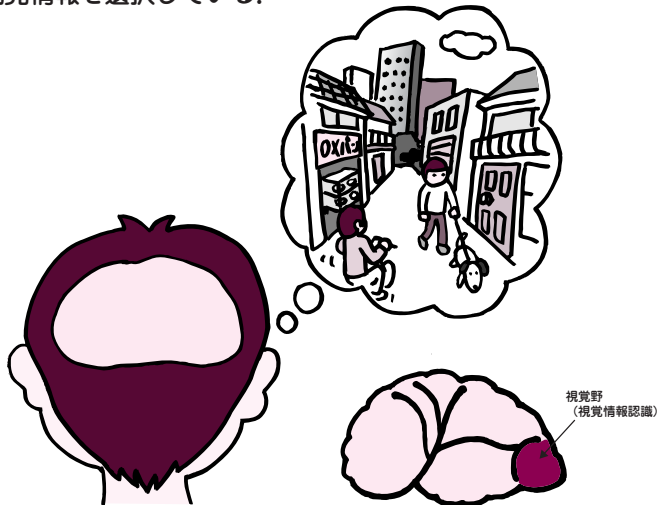
「後頭葉」は脳の後ろ側にあり、目で見た情報をそのまま受け取る機能を持っています。「視覚野」は、視覚情報を認識するために重要な役割を持っています。自分の視界に入ってくる映像を全般的にとらえることができます。(視覚情報を分析→処理する)

この機能に障害を受けると、失認症(60ページ)として現れます。

※耳からの情報(聴覚情報)や手で触る情報(触覚情報)を使って、視覚情報の確認することが、脳機能の活性化を促します。

※情報が色、形、明るさ、動き、模様、位置などいろいろな面から分析され、見た物を分析できる。

※目に入ったすべての情報を認識しているわけではなく、自分に必要な視覚情報を選択している。



脳の部分の働きを紹介



後ろの脳(後頭葉)の働き

後頭葉は視覚野、具体的には色、形、奥行き、動きの部分を受け持っています。

※色、形、明るさ、動き、奥行き、位置をとらえる訓練をしよう。

見る物があるがままにとらえる

後頭葉の障害により見た物の情報(視覚情報)が正しく伝わらないと、にわたりの絵を見せても何の絵かわかりません。聴覚情報は問題なく伝わるので、「コケコッコー」と言うと「にわとりです」と理解できます。

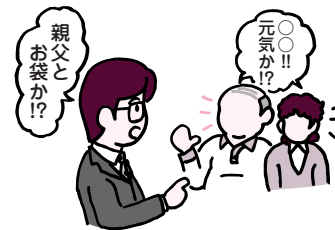
※視覚情報認識がうまくいかない時は、聴覚、あるいは、触覚からの情報認識により確認する習慣をつける。



字が読める

視覚的に認知する機能がうまくいかないと、文字が読めなくなります。※失読とはちがいます。(文字を形として認識できない)

顔がわかる



(顔は認識できなくても、声や動きで認識する)

後頭葉に障害を受けたために、目で見た情報の一部が受け取られなくなることがあります。

そのため顔の部分(相貌失認)だけがわからない状態でも、人物の全体の感じでその人物であることがわかることがあります。(顔だけが認識できない)

(声、服装、動きで理解する)

※視覚情報認識のみがうまくできなくなる(→失認症)